

## 『あなたの症例を名医が解く』

座長：岸 奈治郎

ひとつの症例を解決するのに様々な考え方があります。それは山の頂上に到達するのに様々なルートがあるのと同じ様です。

中医学的な考えというのは何でしょうか？陰陽、五行、経絡、気・血・津液・精、五臓六腑、運氣論、傷寒論、温病学説、補土派など、理論はさまざまあるでしょう。これらの理論は何のためにあるのかというと、目の前の患者の訴えを解決するためにあるのです。

今、目の前に困っている患者がいるとするならば、目的はその症状を取り除くことです。そのためには様々な考え方があって良いのが中医学です。ひとつの考え方に縛られることはありません。

もし、あなたが考えだした治療法で、どんな訴えも改善できるならば、それはすでに新たな中医学理論かもしれません。しかし、すぐに自分ですぐれた治療法を編み出すのは難しいため、それまでは近くにいる先生や過去に自分の経験を残してくれた先生、およそ 3000 年前に理論を残してくれた聖人に習い、やり方を真似するのです。

さて日本の中医学教育はどうでしょうか？系統立てて的確に教育し、臨床を経験し、世に送り出すシステムは？国としての認定は？

今回初めて取り組む「あなたの症例を名医が解く」は、この中医学の山に登るのに、様々な登り方を提示することが目的です。

山を登っているとき、周りは木で見えず、ときには太陽も見えず方角を見失い、小さな物音に恐れおののき、谷底に落ちる恐怖に打ち震える。日本の中医学教育はそんなものかもしれません。様々な登り方がある中医臨床を、それぞれの先生方にお示しいただくことで、この会にかかわっていただいた先生方に山の登り方をお示しするのが目的です。

症例提示をしていただける先生のご経験を、そんな中医学のエキスパートの先生方が別の角度から解説します。

今回御登壇いただくのは、沖縄で中医臨床と教育にご活躍の医師の梁哲成先生、上海で中醫師としてご活躍の藤田康介先生、台湾の中国中医薬大学を卒業し東京で鍼灸&漢方で開業していらっしゃる医師の郷家明子先生の 3 名にお願いしました。

これがすべてではないというのは当然ですが、それがひとつの考え方であるということも事実です。自分の考え方を違った側面から見直す良いチャンスになればと思います。皆さん奮ってご参加ください。